		音 楽 研 究 会		部 会 記 録	
日時	令和4年 1月12日(水) 15:30~16:45				
部会名	研修部 授業実践部会・管楽器部会(二部会合同)			主任	森野 淳
参加数	21名(二部会合計)	司会	新井 敬子	記録	千葉 瑞子
研 修 内 容	二部会合同【指揮法研修】				
	講師：横浜市立西寺尾第二小学校 副校長 宮崎 里子先生 場所：横浜市立桜岡小学校 体育館				
	1. コロナ禍の音楽 二酸化炭素濃度測定器を西寺尾第二小の音楽室に導入予定。二酸化炭素の濃度を測り、基準を超えるとアラームが鳴る。ワイヤレスで職員室でも数値を見ることができる。蒔田中にも導入されている。エビデンスをもつことにより、安心して活動できる。				
	2. 指揮法研修 2人組になり、互いの指揮を見てアドバイスし合う実技研修。				
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ウォーミングアップ「横浜市歌」</div> <ul style="list-style-type: none"> ・前奏から歌に入る時の予備拍が大きいので、気を付ける。大切なのは、2拍目の裏拍。大きすぎるなら、2拍目表拍を省略してもよい。 ・指揮が大きい。シンプルに。 ・何人の子供たちに対して指揮を振っているのかも大事。 ・この曲は勇ましい感じを出すために、1拍前に呼吸をさせるのがふさわしい曲。曲によっては1拍前に息を吸わないほうが効果的なこともある。 ・この曲の2拍子から4拍子にかかわるところは、”舟こそ通え”左手で一度切る。その後、右手で入りを合図する。 ・シャープでエレガントに指揮を振ってほしい。キラキラ感はほしい。 ・練習のしがいのある曲である。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">大切なもの</div> <ul style="list-style-type: none"> ・前奏5小節あるが、1拍前に息をする子供のくせは、私たち指揮者が1拍前で息を吸っているから。大きく息を吸わなくても、ほんの少しの合図で始められる。 ・伸ばす音は指揮を振らない方がよい。 ・クロージングの工夫が必要。 ・かけ合いの旋律の部分”あれから いくつもの～”の部分は、両手で激しい動きになるよりは、片手でシンプルな方がうまくいくこともある。 ・手首は動かさない。指揮棒を持っているつもりで、指をひらひらさせない。 ・練習した4つのポイント (1) 1小節前の合図、息を吸わない合図 (2) 出だしのイメージ (3) 声部のかけ合い (4) サビのイメージ ・“忘れることはない～”のクレッシェンドは、指揮を振った方がよい。サビの始めの”たいせつ”をしっかりと出したい。 ・”気付かない”の始まりの八分音符は、しっかりと打ってあげた方がよい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">旅立ちの日に</div> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の仕組みは「大切なもの」と同じ。 ・「言葉を振る」～出だしの八分休符は指揮をあまり動かさない方が音楽的。 				

そして、” 白い光の～” は、どんな「し」にしたいのか、子どもたちとよく話し合っていくとよい。

- ・サビの” 今 別れの時” はあまり大きく振らなくてもよい。伴奏は勇ましい感じなので、握りこぶしで指揮を振ることも表現方法の一つ。
- ・” 大空に～” 伸ばすところは、子どもたちの実態でカウントを振るか振らないか分かれる。カウントがないとじっくりこない子もいれば、カウントを振ると首を振ってしまう子もいる。